

イノシシによる農作物被害に対する取組 (センサー及びLTEを活用した鳥獣被害対策)

取組の概要

<背景> 地区を取り巻く現状

イノシシによる
農作物被害

でも…

猟友会の人手不足、高齢化

そこで!

ICTの活用による
問題解決

<実証実験>

能生地域鳥道地内にセンサーでイノシシを探知し、遠隔操作で扉を閉めることができる檻を設置

事業費 約800千円(国の鳥獣交付金を活用)

取組の仕組み(全体概要図)

センサーが
イノシシを
探知

通知
メール
が届く

檻の映
像を見
ながら

遠隔操
作で
扉を閉
める

システム構成図



実績:平成28年度(鳥道地区)…2頭 平成29年度(今井地区)…0頭

平成30年度～令和元年度(鳥道・今井地区)…0頭

→イノシシは警戒心が強く、学習能力があるため、捕まえられないようになるのではないかと?

(事業費800千円であることを考慮すると、現時点における費用対効果は必ずしも高いとはいいがたく、事業を展開するにはイノシシの行動を学び捕獲頭数を増やすノウハウが必要)